

国際交流員のコラム

●鹿児島県の離島『徳之島』をご存じですか？●

—鹿児島県国際交流員 金 周希（韓国出身）—

南北に 600km に渡る鹿児島県には魅力的な離島がたくさんあります。その中で、2021 年に奄美大島とともにユネスコ世界自然遺産に登録された徳之島を取材する機会をもらったので、行ってきました。

徳之島に行く前に、周りの同僚や知人に徳之島に行ったことがあるか聞いたのですが、行ったことがある人はほとんどいませんでした。だから私にはとても未知の島でした。行く前には鹿児島県観光連盟のホームページや徳之島の観光ホームページを参考にして取材する所を決めました。

【参考】

鹿児島県観光連盟 - kagoshima-kankou.com

徳之島観光連盟 - tokunoshima-kanko.com

徳之島の一番有名なものを挙げるとしたら、断然、闘牛です。日本で今でも闘牛をしているところは珍しく、実際に体験する機会は多くはありませんが、実は韓国でも闘牛をしているところがあるので、私にとってそこまで見慣れない文化ではありません。この縁で実際に韓国の慶尚北道清道郡と徳之島の 3 町（徳之島町、伊仙町、天城町）は友好都市を結んでいます。私が徳之島に取材に訪れた日の前の週末に、闘牛が見られると聞いて、私は迷わず週末の個人時間を利用して徳之島に行きました。

伊仙町にあるなくさみ館に着くと、入り口周辺にすでに当日の闘牛に出る牛たちが準備していました。なくさみ館はドーム形式で屋根があり、雨の日や日差しが強い日でも無理なく試合ができるようになっていました。また、印象深かったのは全国出生率 1 位の徳之島らしく、会場には子供たちが本当に多かったということです。闘牛は一見、子供たちには向いていないように感じるかもしれませんが、徳之島の次世代である子供たちが徳之島の伝統文化を直接見て体験できることは、徳之島の伝統保存にも大きな役割を果たすことができると思いました。

開始とともに、なくさみ館は大きく盛り上がり、牛が入場し始めました。一匹が先に入場して待っていると、もう一匹の牛が入ってすぐに戦いが始まります。徳之島の闘牛の特徴は鼻綱をせずに、「勢子」と呼ばれる牛の飼い主がそばで牛が興奮するように誘導するということです。牛たちは角と固い頭でお互いに突進し、迫力あふれる闘牛が始まりました。



当日もらった闘牛のチラシ

実際に角に当たって血が出て白かった牛の頭が赤くなったり、時にはにらみ合いだけで本格的な戦いが始まる前に逃げる牛もいます。この場合、逃げた牛はすぐに敗北になります。

この日、計 10 チーム、20 頭の牛が闘牛に参加しました。中でも一番長い試合は 40 分を超えましたが、実際に長い時間が経ったのか感じないほど迫力がある闘牛を観戦しました。闘牛に勝利すると、勝利した牛の飼い主と関係者たちが競技場に入ってきて「ワイド！ワイド！！」と叫びながら勝利を祝います。

闘牛を直接見たのは生まれて初めてでしたが、思ったより巨大な牛たちが迫力溢れる対決をする姿を見て、私も知らない私の中にある熱い血が沸き上がるような感じがしました。機会があれば韓国の闘牛も直接見て比べてみたいと思いました。



すごい勢いで戦っている牛たち

翌日、本格的に徳之島の取材を始めました。今回の取材は、徳之島をより多くの人々、特にメルマガを読んでいただいている外国の方々に紹介したいという目標を持ってスタートしました。ということで、徳之島の代表的な観光地を中心に取材を始めました。いろいろな観光地がありましたので、テーマを分けてご紹介したいと思います。

<自然景観>

●ムシロ瀬

奄美群島ではなかなか見られない花崗岩の地形と海の素晴らしい風景が調和する場所です。まるでムシロを敷いたような風景ということで付けられた名です。永遠に続くような水平線と花崗岩がとても美しい場所です。



ムシロ瀬の風景

●金見ソテツトンネル

徳之島では、昔から家と家、畑と畑の間を区分するためにソテツを植え、塀のように使用していたそうですが、そのソテツが今では生い茂っていて、まるでトンネルのように見えるところです。南国の風景を存分に感じられる観光地です。

<名所>

●泉重千代翁の像

出生率 1 位に輝く徳之島は、もう一つのタイトルがあります。それは「長寿の島」徳之島です。120 歳まで長生きした男性（泉重千代翁）が徳之島出身なのです。皆さんも一度訪れて、長寿の気をもらってみるのはいかがでしょうか？



泉重千代翁の像

<歴史・文化>

●徳之島町郷土資料館

ここは、徳之島の歴史がわかる貴重な資料館です。その地域の歴史を勉強するのが好きな私はとても興味深く観覧しました。特に、徳之島の古代から波乱の歴史を持つ近現代まで、徳之島の歴史を一目で見ることができる展示演出が印象深かったです。

●なくさみ館闘牛資料館

闘牛を見ることができるなくさみ館の建物内に闘牛について知ることができる資料館があります。映像資料や展示物で闘牛の歴史を勉強することができます。資料館は室内なので雨の日にも見学可能です！

●にしかわ酒造

鹿児島県の最も有名なお酒といえば、芋焼酎が挙げられますが、サトウキビが多く栽培される鹿児島県の離島では、特色のある黒糖焼酎が製造されています。

独特の香りがする芋焼酎とは違い、黒糖の甘い香りがする黒糖焼酎は、日本の焼酎を飲んだことがない初心者でも抵抗なく飲みやすい焼酎でした。このにしかわ酒造では、黒糖焼酎が作られる過程を見学し、数種類の黒糖焼酎を試飲することもできます。

ただし飲酒運転は禁物ですので、運転をされる方は飲みたくても我慢してくださいね！（笑）



徳之島でつくる様々な焼酎たち

<徳之島の自然>

●世界文化遺産センター

2024年に開館した世界文化遺産センターは、徳之島固有の自然生態系について見ることができる場所です。まるで森の中に入っているような気分になる演出により、徳之島の自然をより身近で体験したような印象をもらいました。すぐ隣には道の駅徳之島があるので、お土産を買うにもいいところです。



徳之島世界遺産センターの前で



生きているハブ！

●ハブ館、アマミノクロウサギ観察小屋

徳之島がユネスコ世界自然遺産になった理由の一つである独特な生態系の証拠でもあるハブとアマミノクロウサギが見られるところです。ハブ館は天城町役場のすぐ隣に位置して、すごく近くで観察できます。ケージはちゃんと閉まっているので安心してください！

また、アマミノクロウサギ観察小屋では実物は見られないのですが、観察カメラがあり、カメラ近くで遊んでいるアマミノクロウサギの映像などを見ることができます。アマミノクロウサギにすごく熱い思いを持っている職員さんから熱い説明も聞けるのでおすすめです！



アマミノクロウサギのふん。
臭くなくて不思議でした！

他にも南国の島ならではの、美しい海で様々なアクティビティを楽しむこともできます。私はまだ寒い時期に行ったので残念ながら海には入れませんでした。偶然クジラを見ることができました。ザトウクジラが冬場に出産して育児をするために徳之島近くの海にやってくるのですが、ホエールツアーに参加して船に乗ってクジラを間近で見ることができますし、陸でも運が良ければクジラを見ることができます！

四季を通じて様々な楽しみがある徳之島にぜひ訪問してみてください！